

# 幼児教育における言葉の育ちを支える 手立ての在り方に関する考察 ～小学校国語科との接続を視点として～

水戸部 修治

## 1 研究の目的

本論考は、幼児教育における発達の段階を踏まえた言葉の育ちを支える手立ての在り方について、小学校国語科との接続を視点として検討することを目的とする。

小学校国語科の学習指導場面における入門期の児童の個人差は、非常に大きい。こうした個人差に対応するための小学校における指導の改善が重要である一方で、就学前の言語環境整備等により、一人一人の言葉の育ちを豊かなものにする取組が一層重要になる。例えば小学校の国語科の学習指導においては、読み聞かせを継続的に行うことの有効性が指摘されている<sup>1)</sup>。幼児期においてはそのような取組は一層大きな効果をもたらすものと考えられる。

その際、幼児期における言葉の教育は、いたずらに早期教育を求めるのではない点に留意が必要である。例えば幼児期における「ふさわしい生活」を重視した取組の重要性が指摘されているところである<sup>2)</sup>。すなわち、その取組は単なる小学校における国語科教育の前倒しではなく、幼児の発達の段階に応じた援助や言語環境構成の工夫によるものであることが重要となる。

幼児期における言葉の育ちを促す手立てを検討するに当たっては、教育課程の基準である「幼稚園教育要領」の「言葉」領域<sup>3)</sup>及び「小学校学習指導要領」の第1章第2節国語<sup>4)</sup>(以下、「小学校学習指導要領・国語」)に示す内容等の関連性を明らかにすることが必要となる。それぞれの発達の段階に応じた教育内容を確認することができるからである。

ただし、「幼稚園教育要領」も「小学校学習指導要領・国語」も大綱的な基準であり、具体的な手立てを詳述するものではない。そこで、より実態に即した検討を行うため、小学校第1学年の国語科の学習指導の実践を踏まえつつ、幼児期に体験させることが望ましい言葉を用いた活動の在り方を具体的に明らかにすることが求められる。こうした検討を基に、幼児期における言葉の育ちを促す具体的な手立てを構想することとする。

## 2 研究の方法

本研究においては、まず「幼稚園教育要領」の言葉領域と「小学校学習指導要領・国

語」の第1学年及び第2学年の〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域の内容との関連性を明らかにしていくこととする。

その上で、小学校第1学年で実施された国語科の授業の学習指導案について分析し、小学校第1学年で具体的に必要となる国語の能力を明らかにし、それを基に言語の、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域における幼児期の援助及び環境構成の在り方について考察を試みることにする。

### 3 「幼稚園教育要領」における言葉領域及び「小学校学習指導要領・国語」との関連性

#### (1) 関連性の検討に当たって

ここでは、「幼稚園教育要領」と「小学校学習指導要領・国語」の関連性を一覧にし、その関連性・系統性を検討することとしたい。本論考では、小学校国語科との接続を視点として、幼児の言葉の育ちを支援する方策を検討するという目的に資するものとするため、両者の内容の関連性が分かるように独自の整理を試みた。併せて、「幼稚園教育要領」を視点として小学校国語科の授業改善に資する点についても考察を試みることにする。

具体的には表1の通り、「幼稚園教育要領」の言葉領域の(1)から(10)までの内容を、「小学校学習指導要領・国語」の構造に合わせて、〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域に該当するものごとにまとめた。左の列にはその領域を示している。中央の列には、該当する「幼稚園教育要領」の内容を示した。更に右側の列には、該当する「小学校学習指導要領・国語」の第1学年及び第2学年の内容を示した。なお、該当しないと考えられる内容は記載していない。

#### (2) 「幼稚園教育要領」と「小学校学習指導要領・国語」との関連性

##### ① 「幼稚園教育要領」と「小学校学習指導要領・国語」の領域等の対応

左の列に見られるように、幼稚園教育要領の内容は、小学校学習指導要領・国語の領域等の構造に照らすと、〔知識及び技能〕に該当するもの、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれに対応するものに分けることができる。

このうち、〔知識及び技能〕に該当する内容は、主に語彙や語感に関するものであることが分かる。また、領域では「話すこと・聞くこと」に該当する内容項目が最も多く、「読むこと」、「書くこと」についてはそれぞれ1項目ずつのみとなっている。幼児期の発達の段階に応じて音声言語を中心とした言葉の育ちを目指していることが明確になっている。

##### ② 語彙・語感に関する関連性

表1において知識及び技能として整理した内容を見ると、前述のように語彙や語感に関するものが中心となっていることが分かる。「幼稚園教育要領」の言葉領域における「内

幼児教育における言葉の育ちを支える手立ての在り方に関する考察

表1 「幼稚園教育要領」 と 「小学校学習指導要領・国語」 の関連性

	幼稚園教育要領 言葉	小学校学習指導要領・国語
知識及び技能	<p>2 内容</p> <p>(5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。</p> <p>(7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。</p> <p>(8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</p>	<p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1)ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p> <p>(1)オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。</p> <p>(3)イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。</p>
話すこと・聞くこと	<p>(1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。</p> <p>(2) したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。</p> <p>(3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。</p> <p>(4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>(6) 親しみをもって日常のあいさつをする。</p>	<p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。</p> <p>イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。</p> <p>ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。</p> <p>エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。</p> <p>オ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。</p>
書くこと	<p>(10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。</p>	<p>〔知識及び技能〕</p> <p>(1)キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。</p> <p>B 書くこと</p> <p>ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。</p> <p>ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。</p> <p>エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりすること。</p> <p>オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。</p>
読むこと	<p>(9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。</p>	<p>〔知識及び技能〕</p> <p>ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、 「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>C 読むこと</p> <p>ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。</p> <p>イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。</p> <p>ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。</p> <p>エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。</p> <p>カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。</p> <p>〔知識及び技能〕</p> <p>(3)ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。</p> <p>(3)エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。</p>

容の取扱い」には、留意点が次のように示されている。（下線は筆者による。以下同じ。）

- (1) 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児が教師や他の幼児とかかわることにより心を動かすような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

特に下線のような点に配慮した援助を進めていくことにより、「小学校学習指導要領・国語」の例えば〔知識及び技能〕(1)オにある「語彙を豊かにする」ことへと確実に発展させていくことができると考えられる。

「語彙指導の改善・充実」は今回の「小学校学習指導要領・国語」の改訂の要点<sup>5)</sup>でもあるが、小学校では単元の冒頭で言葉の意味調べを機械的に行わせたり、文脈とは無関係に短文づくりをさせたりするなど矮小化して捉えられている状況も散見される。語彙は、やみくもに語句を暗記させれば豊かになるわけではなく、多様な言語活動を行うことを通して、理解語彙として、また表現語彙として定着し、結果として豊かになっていくものである。上記のような「幼稚園教育要領」における内容の取扱いは、小学校の学習指導においても引き続き留意すべきものであろう。

#### ③「話すこと・聞くこと」に関する関連性

「幼稚園教育要領」の内容(1)に見られるように、幼児教育では言葉や言葉で伝え合うことに対する関心をもたせることを重視している。このことが小学校では「相手に伝わるように」話したり、「話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞」いたりする能力へと発展していくものと考えられる。幼児期においては、家族や教師、友達など身近な人々と話したり聞いたり話し合ったりする経験を豊富に積み、そのよさを味わうことが重要なものとなる。そうした豊かな言語体験の積み重ねは、小学校低学年でも継続していくことが大切になると考えられる。そのため、小学校の国語科では単に話すスキルを教え込むといったことのないように留意することが求められる。

#### ④「書くこと」に関する関連性

「書くこと」に関する「幼稚園教育要領」の内容としては、「(10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。」ことが示されている。この点について『幼稚園教育要領解説』では次のように述べている<sup>6)</sup>。

「それぞれの幼児なりの文字などの記号を使って楽しみたいという関心を受け止めて、その幼児なりに必要感をもって読んだり、書いたりできるような一人一人への援助が大切である。」

すなわち、幼児教育の段階においては、文字などで伝えたい、伝え合いたいといった思いの膨らみを重視することを求めるものである。こうした思いや願いを大切にしたい援助が、小学校段階では書いて伝えることのよさを実感したり、よりよく書こうとしたりする態度の基盤となるものと考えられる。

#### ⑤ 「読むこと」に関する関連性

「読むこと」に関連する内容は、「(9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。」の1項目のみである。しかしこの内容は、小学校国語科の「読むこと」の学習に発展していくものであり、非常に重要な内容であると言えるだろう。「小学校学習指導要領・国語」では、表1のように〔知識及び技能〕の「(3)エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。」に直接関わるが、これに加えて内容(2)の言語活動例には「イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。」が示されている。

就学前の家庭における読み聞かせに関しては、幼稚園、保育所のいずれの保護者も行っているが、約2割程度の保護者はあまり積極的ではないとの調査結果が示されている<sup>7)</sup>。経済格差が拡大する社会状況の中では、子供たちの教育環境の格差も更に拡大していくことが予想される。そのため、幼児教育から小学校教育を通じて読み聞かせを重点的に取り入れていくことは極めて重要な意味をもつ。

## 4 小学校第1学年・国語科における学習指導案から見た幼児期における望ましい活動

### (1) 学習指導案の分析について

ここでは、小学校第1学年の国語科の学習指導案を基に、小学校第1学年で必要となる国語の具体的な能力を明らかにするとともに、幼児教育において十分に体験させることが望ましい活動を明らかにすることを目指す。その検討の基礎となるデータとして、第1学年の国語科の授業の学習指導案10本を取り上げ、以下の表2に整理している。これらの学習指導案は、筆者が授業者と共同的に単元構想に取り組んだもので、小学校第1学年の国語科の学習指導案として、学習指導要領の趣旨を十分踏まえた単元構想となっていると考えられるものを選定している。

「単元名」の欄には、当該の単元名に加えて括弧内に主な教材名を示している。「育成を目指す能力」については、当該単元の指導目標のうち主なものについて、学習指導要領の記号によって記載した。なおAは「A 話すこと・聞くこと」、Bは「B 書くこと」、Cは「C 読むこと」の領域を意味している。「知」とあるのは〔知識及び技能〕の事項であることを意味している。なお、これらの実践は学習指導要領の移行期間である平成30年度から平成31年度（令和元年度）にかけて実施されたものであるため、平成20年版学習指導要領に基づいて目標が記載されているものと平成29年版学習指導要領に基づいて目標が記載されているものと混在している。そこで、平成20年版学習指導要領に基づいて目標

表2 小学校第1学年国語科学習指導案から見た幼児期における望ましい活動

No.	単元名	育成を目指す能力	具体的学習内容	幼稚園教育要領との対応	実施時期
1	きいて きいて おはなしはうすで だいすきを つたえあおう (おむすびころりん)	Cイ、カ知(3)ア、エ	昔話の読み聞かせを聞いたり読んだりして、面白いところを見付けて伝え合う。	(7)、(9) ・色々な昔話の読み聞かせを聞く。 ・お話の面白いところを見付ける。	6月
2	いきものかくれんぼく いずをつくろう (海のかくれんぼ)	Cア、ウ知(2)ア、(3)エ	教材文や図鑑を読み、興味をもったことを見付けてクイズをつくって出し合う。	(4)、(9) ・生き物図鑑に興味をもち、読み聞かせを聞く。 ・写真などを手掛かりに図鑑などを読む。 ・クイズなどの形式で、聞いたり話したりすることを楽しむ。	9月
3	きいて！わたしのだいすき ふきだしにかいてしょうかいしよう (くじらぐも)	Cエ、カ知(3)エ	「くじらぐも」や自分の好きな物語について、好きな場面を見付け、言葉を想像して紹介する。	(8)、(9) ・絵本や物語の読み聞かせを聞き、お気に入りのお話を選んだり、好きなところを見付けたりする。 ・場面の様子を想像して楽しむ。	10月
4	おきにいのり の むかしばなしを しょうかいしよう (昔話がいっぱい)	Cイ、カ知(4)ア、エ	色々な昔話の読み聞かせを聞いたり読んだりして、好きな昔話の面白いところを紹介する。	(7)、(10) ・色々な昔話の読み聞かせを聞く。 ・お話の面白いところを見付けてそのわけを話す。	11月
5	「おはなしとびら」で すきなところをつたえあおう (たぬきの糸車)	Cエ、カ知(3)エ	物語を読んで好きな作品を選び、好きな場面やそのわけを説明する。	(8)、(9) ・絵本や物語の読み聞かせを聞き、お気に入りのお話を選んだり、好きなところを見つけたりする。 ・場面の様子を想像して楽しむ。	12月
6	「おはなしハウス」をつかって 大きさをみんなにつたえよう (ずうっと、ずうっと、大好きだよ)	Cイ、エ知(1)オ、(3)エ	物語を読み、大好きなところやそのわけを紹介し合う。	(1)、(2)、(9) ・悲しい場面を含んだ物語など色々なお話の読み聞かせを聞く。 ・好きな場面を見付けたりそのわけを話したり聞いたりする。	12月
7	乗り物カルタをつくろう (はたらく自動車)	Cア、ウBウ知(3)エ	文章や自動車図鑑から好きな乗り物の働きとつくりを見つけ、かるたに書く。	(5)、(9)、(10) ・乗り物などの図鑑に興味をもち、写真を見たり読み聞かせを聞いたりする。 ・絵などに添えて文字などで伝え合う楽しさを味わう。	12月
8	びっくりポイントを見つけ、「赤ちゃんカード」をつくってつたえよう (動物の赤ちゃん)	Cア、ウ知(3)エ	動物の赤ちゃんの成長について書かれた文章や科学読み物を読み、すごいと思うところを順序や違いに気を付けて説明する。	(8)、(9) ・図鑑などの読み聞かせを聞いたり写真を見たりして、興味をもったところを見付ける。 ・体験を通して言葉を増やす。	1月
9	しょうかいします！わたしのお気に入りのほうほう (歯が抜けたらどうするの)	Cア、ウ知(3)エ	歯が抜けたときの風習について書かれた本を読み、その中からお気に入りの方法を選んで紹介する。	(3)、(9) ・色々なノンフィクションの本の読み聞かせを聞く。 ・自分がしてみたいことを想像して話す。	2月
10	「これはなんでしょう」ゲーム大かいをしよう (これはなんでしょう)	Aア、オ知1オ	身近なものを言い当てるためのクイズをつくり出題し合う。	(1)、(4) ・クイズなどの形式による対話を楽しむ。 ・相手に伝えたり、相手の話を聞いたりする楽しさを味わう。	2月

が記載されているものについては、平成29年版学習指導要領の指導事項等に読み替えて記号を示している。「具体的学習内容」の欄には、当該単元の主な学習活動を記載している。「幼稚園教育要領との対応」の欄については、当該単元と関連が深いと考えられる「幼稚園教育要領」の言葉領域の内容の番号を括弧書きで記載している。また、小学校の学習内容を基に、幼児期の段階において充実させることが望ましいと考えられる活動を記載した。「実施時期」の欄には、当該単元の指導時期を月で記載している。

## (2) 学習指導案に見られる特徴と幼児期における望ましい活動及び環境構成の在り方

### ①学習指導案の概況

表2では、主に「読むこと」の事例が多くなっており、説明的文章が4本（No.2、7、8、9）、文学的文章が5本（No.1、3、4、5、6）、「話すこと・聞くこと」が1本となっている。これは、第1学年の研究授業において「読むこと」の領域の授業提案が多いことからきているものと考えられる。「書くこと」については単独領域の単元はないものの、No.7の実践が「読むこと」と「書くこと」の複合単元として扱われている。

なお、国語科は1時間だけの単発の言語教材などの例外はあるものの、第1学年であっても夏休み明け以降については、数時間から10時間程度のまとまりで単元を構成して指導を行うことが基本である。本論考ではそうした事例を取り上げて検討することとしたい。

### ②説明的な文章の学習指導に関して

説明的文章の4本（No.2、7、8、9）の事例を見ると、いずれも教科書教材のみならず、関連する図鑑や科学読み物を取り上げて指導していることが分かる。平成29年版の「学習指導要領・国語」では、第1学年及び第2学年の内容の(2)に次のような言語活動例が示されている。

「ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。」

こうした言語活動を通して学習指導を行うという国語科の基本的な枠組みを踏まえて指導が構想されているものと考えられる。またこの言語活動例に「分かったことなどを説明する活動」とあるように、単に読んで終わるのではなく、「クイズをつくって出し合う」（No.2）、「乗り物かるたをつくる」（No.7）など、子供たちにとって魅力的な表現課題を工夫して設定していることも特徴として挙げられる。

説明的な文章の従前の指導のイメージとしては、教科書教材を段落ごとに読み取り、内容を正しくつかませるといったものが中心的であっただろう。しかし、情報化社会の今日、子供たちにとって必要な読む能力は単に与えられた文章の意味を受け取るだけでは十分とは言えない。そのため、魅力的な表現課題の遂行に向かって、様々な図鑑や科学読み物を、

興味をもって読み、表現していくことを大切にしていくのである。

しかしそうした学習を行うためには、幼児期から図鑑などに親しむという言語の体験が重要な基盤となる。そこで幼児期においては、できるだけ多彩な図鑑などに親しませることが有効になると考えられる。特に幼児にとっては乗り物や動物、昆虫などをテーマとした図鑑などに興味をもつことが多いと考えられる。こうした図鑑を豊富に取り揃えておくことが、環境構成として強く望まれるところである。また、図鑑類を読み聞かせすることも有効である。読み聞かせは通常は物語や絵本が対象となることが多いと考えられるが、図鑑類を取り上げることもぜひ進めていきたい。その際、物語や絵本であれば、ストーリーに沿って読み聞かせをしていくこととなるが、図鑑は必ずしも1ページ目から順に読んでいくわけではない。例えば幼児が興味をもったページを選べるようにし、そのページについて読み聞かせをしたり、もっと詳しく知りたいことが書かれているページを開いて読み聞かせしたりすることが考えられる。子供一人一人がどのような種類の図鑑に興味をもつのかをつぶさに観察しながら、そうした機会を確保していくことが大切になる。

### ③文学的な文章の学習指導に関して

文学的な文章の5本（No.1、3、4、5、6）の事例を見ると、やはりいずれも教科書教材のみならず、昔話や物語、絵本などの関連図書を取り上げて指導していることが分かる。また、平成29年版の「学習指導要領・国語」では、第1学年及び第2学年の内容の(2)に次のような言語活動例が示されている。

「イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。」

こうした言語活動例を具体化するものとして、「お話ハウスで大好きを伝え合う」（No.1）、「お話の大好きなところについて、吹き出しで会話を想像して紹介する」（No.3）、「お気に入りの昔話を紹介する」（No.4）といった魅力的な言語活動が工夫されていることが分かる。

文学的な文章の指導イメージといえば、従前は説明的な文章同様、場面ごと読み取り主題をつかむといったことが定番であったであろう。しかしその結果、教材文は読み取れても、自ら読書に向かう姿につながらなかつたり、次の文学的な文章の単元の学習に積み重なっていかなかったりする状況が散見されてきた。こうした状況を改善すべく取り組まれてきたのが本論考に挙げたような言語活動を効果的に位置付けた事例である。しかし就学前において昔話や物語、絵本などに触れる体験の質と量の違いによって、児童の学習状況が大きく左右されることも多かった。そこで幼児教育においては、昔話や物語、絵本などの読み聞かせを一層重視していくことが求められる。そのため言語環境構成としては、昔話や絵本、読み聞かせ用の大型絵本や紙芝居などを幼児の身近なところにそろえておくこ

とが望まれる。また教師自身が、物語が大好きだといった姿勢を見せながら読み聞かせ等を行うことも大切になる。

その際、上掲の事例に共通に見られるように、本を選んだり、その中でも好きな場面を見付けたりする活動を積極的に取り入れていくようにしたい。小学校段階でも、好きなお話や好きな場面を見付けることができないという児童が見られる場合がある。その原因は、それまでの読書体験や読み聞かせを聞く体験の不足によるものと推測される。

さらに、好きなわけについても意識できるようにしたい。その際、小学校学習指導要領・国語の「読むこと」にある次の指導事項を手掛かりにすることが考えられる。

エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

すなわち、幼児教育における読み聞かせの視点として、登場人物の言動を想像したり、自分自身と結び付けて感想をもったりすることが挙げられるであろう。なお、「幼稚園教育要領」の言葉領域における「内容の取扱い」には、留意点が次のように示されている。

- (3) 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

こうした点に留意することは、小学校国語科における学習とも密接につながるものである。

### (3) 学習指導案の本時の学習指導過程から見た幼児期に期待される活動

続いて小学校国語科の学習指導から、幼児教育における望ましい活動をより詳細に浮き彫りにするため、単位時間の学習活動の計画を基に検討していくこととする。

次に示すのは、前掲の表2のNo.3の学習指導案の本時の目標及び指導過程である<sup>8)</sup>。単元の指導計画全12時間の中の9時間目、自分の選んだ物語について、大好きな場面の理由や、その場面の登場人物の言葉を想像する学習である。下記の学習指導案について、幼児期における望ましい活動が想定できる箇所に○囲み番号を付し、その箇所に関して検討を試みる。

#### ○本時の目標

自分が選んだ作品を読んで、大好きな場面の理由を友達と交流し、吹き出しに書いて想像を広げる。(読むこと エ)

○本時の展開

主な学習活動	時間	主な発問（○） 児童の意識の流れ（・）	指導上の留意点（○） 評価（◇）〔方法〕
1 本時のめあてとゴールを確認する。	2	○今日は、「ぐりとぐら」シリーズの大好きなところの理由を友達と伝え合って、吹き出しを書きましょう。【①】	○前時までの流れと、本時の学習を確認する。
2 あらすじを確認する。	5	○どんなお話だったか、みんなで確かめましょう。	○全体で、あらすじを押さえる。
3 1人で大好きな場面に吹き出しを当てて想像する。	3	○まずは1人で、大好きなところに「おはなしふきだし」を当てて、お話をしてみましょう。【②】	○大好きな場面の理由をもとに、吹き出しの想像を広げるようにする。
4 大好きな場面の理由と、自分の考えた吹き出しをペアで交流する。	15	○次は、大好きな場面の理由と、今考えたお話を、友達に伝えましょう。【③】 ・わたしの大好きなところは、（指をさしながら読む）です。どうしてかという と、ぐりとぐらが森でひろった大きな卵を使ってカステラを焼くところがとてもおいしそうだったからです。わたしもカステラを食べてみたいです。ぐりは「やったあ。大きな卵をつかって、大きなカステラが焼けたぞ。森の動物たちが焼けるのをまっているぞ。」と言っていると思います。	○交流では、児童が安心して伝え合えるように、「つたえかたのてがかり」を提示する。 ○1回目の交流の後に、伝え方の上手なペアのお手本を見せる。 ○ペアを3回変えて、同じ活動を繰り返す。 ○交流時には、相手の言うことをうなずきながら聞くこと、分からなかったらもう一度聞き返すこと、吹き出しが思い付かなかったら一緒に考えてほしいと伝えることを確認する。【④】
5 ペアで交流したことをもとに、吹き出しを書く。	10	○友達と伝え合ったことを、吹き出しに書きましょう。【⑤】	○吹き出しが書けない児童には、ペアでの交流を想起させるようにする。 ◇〔読工〕友達と交流したことをもとに、吹き出しに書いて想像を広げることができる。（発言、ワークシート）
6 書いた吹き出しを全体で共有する。	8	○書いた吹き出しを発表しましょう。【⑥】	○交流の前と後で、吹き出しに書いたことがどのように変わったかも発表させ、振り返りにつなげる。
7 振り返り	2	○選んだ本でも、したことや言ったことから想像を広げて、吹き出しに書くことができましたね。 ○次の時間は、「だいすきふきだしカード」を丁寧に作りましょう。	○本時の学習を振り返り、次時の活動の流れを確認する。

①本時のめあての確認

上掲の学習指導案の【①】の箇所は、本時の学習の見通しを立てる時間である。単に教師に指示されて学習を始めるのではなく、大好きなお話を紹介するという単元全体のゴールに向かって、本時の学習内容を確認していくこととなる。こうした学習に主体的に取り組もうとする原動力は、これまでの学習の中で、物語を読んで楽しかった、それを友達と伝え合ったらもっと楽しかったといった体験である。

幼児教育においてはその基盤として、内容の(1)に関わり、お話の読み聞かせを聞くのがわくわくするといった思いや、みんなでお話を聞いたり、想像したことを伝え合ったりすることが楽しいといった思いをできるだけたくさん積み重ねていくことが大切になる。

②好きな場面の登場人物の会話を想像する

【②】は自分の選んだお話について、前時までに見付けた好きな場面をはっきりさせた

上で、その場面における登場人物の言動を想像する学習である。「小学校学習指導要領・国語」の「C 読むこと」の「エ 場面の様子について、登場人物の行動を具体的に想像すること。」を指導するための学習活動となる。ここでは、「大好きな場面を見付ける」ことやその場面の叙述から「登場人物の行動を具体的に想像すること」が求められる。なお、この実践では「お話吹き出し」を用いて人物の会話を想像しやすくしている。「お話吹き出し」とは、吹き出しの形に切った紙をラミネート加工した、繰り返し使える吹き出しのことである。児童は、挿絵や本文などにこの吹き出しを当てて登場人物が言っていることを想像して話すのである。

幼児教育においては、内容の(9)に関わって、お気に入りのお話を選んだり、お話の大好きなところを見付けたりできるようにすることが大切になる。また、上述のような「お話吹き出し」のようなツールを、読み聞かせの場に限らず、人形で遊んだりする場面などでも活用できるようにすることで、人物の会話を具体的に想像することにも慣れていくことが期待される。

### ③想像したことなどを友達に伝える

【③】は大好きな理由やその場面について想像した会話を友達と伝え合う学習である。小学校第1学年では、本時の学習指導案にあるように、これまでの学習を基に「伝え合う手掛かり」を具体的に示したり、子供たち同士の交流のモデルを全員で共有したりするなど、どのようにペアで対話するのかを丁寧に指導していくこととなる。また相手を変えながら何度もペアで対話を繰り返していくことで、初めは自分の思いや考えが言葉にならない児童も、徐々に自分自身の言葉として自信をもって伝えられるようになっていくことを目指す。

幼児教育においてはその基盤として、内容の(1)、(2)、(4)に関わって、自分の思いを相手に伝えることのよさを味わう体験を十分もたせることが大切になる。その際の言語環境構成としては、伝えたい思いが膨らむ場を様々に準備することが大切になる。抱いた思いや願いが強ければ強いほど、それを何とかして相手に伝えようとするエネルギーとなるからである。教科書教材にとどまらずNo.2の本時においては自分が選んだ物語の大好きなところなどを紹介することとしているのも、そうした思いをより強くもてるようにするための手立ての一つなのである。

### ④分からない点などを聞き返す

【④】はペア交流の場において、分からなかったことについてはもう一度聞き返す学習である。機械的に質問のスキルを訓練させるのではなく、「もっと聞きたい」という思いを抱きながら聞き、自分が聞きたい大事なことを落とさずに聞くことができるようにするものである。

幼児教育においては、友達と一緒に遊んだり過ごしたりする中で、言葉で伝え合う時間をたっぷり取り、「友達の話をもっと聞きたい」という思いを醸成できるようにしていく

ことが重要になる。また教師も子供に対して尋ねたり、尋ねられたことに答えたりするといった働きかけを積極的に行っていくことが望まれる。

#### ⑤想像したことを文章に書く

【⑤】はペア交流を通してはっきりさせた会話や好きな理由を文章として書き表す学習である。児童はその直前の学習において、ペアで好きな場面の理由を話したり、「お話吹き出し」を使って会話文を発話したりしている。その繰り返しの中で言葉がより明確なものになっていくが、いざ吹き出しに書こうとすると、ありきたりの会話文しか書けない場合も多々見られる。こうした状況に対応するため、ペア学習の後半では吹き出しに書き出す学習を見据えて、書き言葉に近い形で説明し合わせるなどの手立てが有効になる。更に自分が書いた文や文章を声に出して読むようにすると、文や文章に対する意識が一層高まる。

幼児教育においては、まず書き言葉としての文字に気付かせるような環境構成の工夫が大切になる。その上で、自分の話したことが文字として形になることのよさを実感させていきたい。そのためには、幼児が発した言葉を、教師が文字で書き取り、幼児に示したりする手立てが有効である。その際、文字を書かせることを一律にねらうのではなく、幼児の関心の度合いを見計らって援助していくことが重要になる。平仮名の書きについては小学校第1学年で指導することとなる。その場合も、機械的に文字の書きを訓練させるのではなく、文や文章を書く中で、「自分の思いを書きたい」「相手に伝えたい」という思いを十分喚起することが重要になる。幼児教育においては、文字言語表現力の基盤となる、書いて伝えたい思いを膨らませる言語体験を豊富に積ませることが重要になる。

#### ⑥想像したことを発表する

【⑥】は書いた吹き出しを読み上げて発表する学習である。この場合は、聞き手は学級の児童全員である。小学校入学時点で既に、自分の意見を発表することを好む児童もいれば、発表したがない児童もいる。

幼児教育においても、幼児が徐々に自分の思いを言葉にして伝える機会を意図的に設定するなどの言語環境構成の工夫が望まれる。

### 5 言語の各領域における言葉の育ちに向けた手立てや環境構成の在り方

ここまで、小学校第1学年の学習指導案を基に、幼児の言葉の育ちに向けた具体的な手立てや環境構成の在り方について検討してきた。本論考のまとめとして、以下、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれの領域における、幼児期における言葉の育ちを促す手立て及び環境構成を整理してみたい。

#### (1) 「話すこと・聞くこと」に関わる手立て及び環境構成の工夫

話したり聞いたり、話し合ったりする音声言語活動は、最も日常的に行いやすいもので

ある。そのため、幼児が言葉を発しながらなりきり遊びに没頭したり、複数で遊んで言葉を交わしたりする活動をできるだけ多くの場面に取り入れることが望まれる。ただし幼児の中にはなかなか思いが言葉にならず、黙々と遊ぶ姿が見られる場合もある。例えそうであっても、幼児の内なる思いが膨らむようにすることを重視し、言葉を発したり、友達と言葉のやりとりをしたりする姿を待つことが大切になる。

ある程度言葉が発せられる状態になったら、言葉で伝え合う楽しさを実感できる場を多く設定できるようにすることが望まれる。また、幼児が尋ねる場面を生かし、興味をもったことを様々に質問することを促していきたい。そのためにも、幼児が言葉を発したり、言葉のやりとりをしたりすることがどのような場で生じやすいのかをつぶさに記録しておくことが大切なものとなる。

## (2) 書くことに関わる手立て及び環境構成の工夫

幼児期においては、文字を習得する以前に、文字に関心をもったり、自分の話した言葉が文字になる驚きや楽しさを実感したりできるようにすることが重要になる。

また文字を習得する前段階として、筆記具を用いて直線や曲線を思いのままに書く行為を楽しむ姿も見られる。文字にならないものであっても、幼児にとっては何らかの思いを表出するものである場合も多い。そこで例えば幼児に対して「何て書いたの。」などと問いかけることによって、文字で表現したいという思いを一層膨らませることができる。

## (3) 読むことに関わる手立て及び環境構成の工夫

読むことに関わっては、様々な昔話や絵本、図鑑などを、その特質に合わせて継続的に読み聞かせすることが非常に重要になる。幼児期においては1つの作品を深く味わう以前に、多様な作品の読み聞かせを聞き、多彩なストーリー展開を味わったり、それらの展開に触れて喜んだりはらはらどきどきしたり、少ししんみりしたりするなどの読書体験が極めて重要になる。小学校段階でいわゆる「読める子」は、幼児期にそうした体験を豊富にもっていると推測される。

そこで言語環境構成の工夫としては、幼児が読み聞かせしてほしい作品を選んだり、お気に入りの本を見付けたりできるように、幼児の手の届くところに本などをたくさん用意しておくといったことが一層重要になる。また、読み聞かせを聞いて感じたことや好きなところ、想像したことなどを話したり聞いたりする活動や、図鑑の写真などを手掛かりに知りたいことを見付け、読み聞かせしてもらえようとするといった工夫も有効であろう。

## 6 展 望

本論考においては、「幼稚園教育要領」、「小学校学習指導要領・国語」及び小学校第1学年の国語科学習指導案を基に考察を進めてきた。今回見えてきた手立てや環境構成の工

夫の方向性を基に、幼児教育の実態を踏まえたより詳細な検討が必要である。また本論考では小学校との接続を視点としていたために、幼児期の更に詳細な発達の状況を踏まえた検討には至らなかった。

そこで今後は、アクション・リサーチ等により、幼児教育の実践の姿を基に、よりよい手立てや環境構成の工夫についての検討を進めていくこととしたい。

注

- 1) 佐藤真衣香「国語 入門期における読み聞かせ活動の音読する意欲や読む力の向上に与える効果について」『教育実践研究』第29巻、pp. 1 - 6、2019、上越教育大学学校教育実践研究センター
- 2) 佐藤哲也、井上琴子、田中亨胤「幼児の『ふさわしい生活』を支える保育の研究」『兵庫教育大学研究紀要』第1分冊（18）、pp. 147 - 159、1998、兵庫教育大学
- 3) 本論考では平成29年告示「幼稚園教育要領」を対象とする。
- 4) 本論考では平成29年告示「小学校学習指導要領」を対象とする。
- 5) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』、p. 8、2018
- 6) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、p. 214、2018
- 7) 古相正美、岡本満江「保育園・幼稚園に通う乳幼児の家庭における絵本読み聞かせの実態」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部 研究紀要』第49号、pp. 25 - 34、2017
- 8) 葛飾区立綾南小学校第1学年国語科学習指導案による。

なお本論文は、JSPS 科研費 JP17K04833の助成を受けたものである。